

 株価は「偵察機」かもしれない

● 上級〜一般教養レベル

株式市場は、日本経済の未来をどこまで先に映しているのか

ここまで私たちは、

4158 兆円という巨大な資産。

世界で稼ぐ日本。

国内設備投資。

中小企業の粗利。

賃金。

インフレ。

と、お金の流れを順番に追ってきました。

そして最後に、NIGHT FLIGHT らしく、

株式市場

を見てみます。

日経平均。

TOPIX。

出来高。

売買代金。

半導体。

重工。

銀行。

電線。

建設。

商社。

これらの数字は、単なる「株価の記録」ではありません。

場合によっては、

これから資金が向かう場所を、少し先に映している

ことがあります。

だから今回は、株価を

「偵察機」

として考えてみます。

 なぜ株価は「未来」を先に動くのか

株価は、今の業績だけで決まるわけではありません。

投資家は、

来年の売上はどうなる？

利益は増える？

新しい工場ができる？

その会社に注文が増える？

と、未来を予想します。

たとえば半導体工場の建設計画が発表されたとします。

まだ工場は完成していません。

企業の利益もまだ増えていません。

それでも、

製造装置メーカーに注文が増えるかもしれない。

電線需要が増えるかもしれない。

建設会社が忙しくなるかもしれない。

と投資家が考えれば、その関連企業の株価が先に動くことがあります。

つまり株価には、

将来の利益への期待

が先に織り込まれることがあるのです。

 **株価は「先行指標」になりうる**

経済には、

今の状態を示す数字。

過去を確認する数字。

未来を先に示す可能性のある数字。

があります。

株価は、その中でも

先行的に動くことがある指標

です。

ただし、

株価が上がったから、未来が必ずその通りになる

わけではありません。

株価は予想です。

予想は外れることもあります。

ここが重要です。

 **偵察機は、ときどき誤報を出す**

投資家が、

「この企業は成長する！」

と期待する。

株価が上がる。
ところが、
工場完成が遅れる。
需要が伸びない。
競争が激しくなる。
原材料費が上昇する。
利益率が悪化する。
こうしたことが起これば、期待は修正されます。
株価も下がります。
だから、
株価＝未来の事実
ではありません。
むしろ、
「市場参加者が今、どんな未来を想像しているか」
を見る数字だと考えた方がよいでしょう。

日経平均だけでは市場全体は分からない

ニュースでは、
「日経平均が大幅上昇」
という数字が大きく報道されます。
しかし、
日経平均上昇＝日本企業全部が上昇
ではありません。
日経平均は 225 銘柄で構成され、株価水準の高い一部銘柄の影響を受けやすい特徴があります。
そのため、
半導体など一部の大型株が急上昇
すると、
市場全体以上に日経平均が大きく動く場合があります。
そこで見るのが、
TOPIX
です。

日経平均と TOPIX の「差」を見る

TOPIX は、東証の幅広い銘柄の時価総額を反映する指数です。
たとえば、

日経平均 +2%

TOPIX +0.5%

だったとします。

この場合、

一部の値がさ株が日経平均を強く押し上げている可能性があります。

反対に、

日経平均も TOPIX も強ければ、

より広い範囲の企業へ買いが広がっている

可能性があります。

つまり、

指数の方向だけでなく、上昇の「広がり」を見る

わけです。

📊 でした。「出来高」と「売買代金」

価格だけではなく、

出来高

と

売買代金

も重要です。

出来高は、どれくらい株が売買されたか。

売買代金は、どれくらいの金額が市場で動いたか。

たとえば、

株価 +5%。

でも出来高が非常に少ない。

この場合、少数の取引で価格が動いた可能性があります。

一方、

株価上昇+出来高増加+売買代金増加

なら、

より多くの資金が参加している可能性があります。

だから NIGHT FLIGHT では、

価格 × 量

をセットで見ます。

💰 でした。「資金ローテーション」

市場のお金は、いつも同じ業種にいるわけではありません。

ある日は半導体。

次の日は銀行。
その次は重工。
さらに建設。
と、主役が変わることがあります。
これを、
資金ローテーション
と呼びます。
たとえば、
半導体株は利益確定で下落。
でも銀行・商社・重工が上昇。
この場合、
市場から資金が消えた
のではなく、
市場内部で資金の行き先が変わった
可能性があります。
NIGHT FLIGHT 流に言えば、
乗客が飛行機から降りたのではなく、座席を移動した。
という感じです。



「資金拡散」を見る

さらに重要なのが、
どれだけ多くの業種へ資金が広がったか
です。
半導体だけ。
なら、
集中
です。
半導体から、
銀行。
重工。
電線。
建設。
商社。
鉄鋼。
と広がっていけば、
資金拡散

が起きていると考えられます。

これは、市場の裾野が広がっているかを見る一つの方法です。

ただし、これも株価だけで結論は出しません。

市場の予想を、実体経済で検証する

ここが今回の NIGHT FLIGHT で最も重要です。

たとえば電線株が上昇したとします。

市場は、

「これから電力インフラ投資が増える」

と予想しているのかもしれませんが。

では本当に、

受注は増えた？

売上は増えた？

粗利は増えた？

設備投資は増えた？

工場は増産した？

人を採用した？

賃金は上がった？

と確認します。

つまり、

株価 → 実体経済

をつなげて検証します。

株価も「お金の配管図」の一部

今回の流れをつなげてみましょう。

株価が動く

↓

市場が将来の需要を期待している

↓

実際に受注が増える

↓

売上が増える

↓

粗利・利益が増える

↓

設備投資・賃金が増える

↓

消費へ流れる

↓

次の投資へ

ここまでつながれば、
株式市場で見た「期待」が、
本当のお金の血流
へ変わったことになります。

⚠ 株価だけで「日本復活」と言わない

ここは最後まで慎重にします。

株価が高い。

日経平均が最高値。

だから、

日本復活！

とはしません。

株価には、

金融政策。

為替。

金利。

海外投資家の資金。

需給。

期待。

など、実体経済以外の要因も影響します。

だから株価は、

証拠ではなく、手がかり

です。

NIGHT FLIGHT では、

株式市場は「次にどこを見るべきか」を教えてくれるレーダー
として使います。

Market Radar という考え方

ここまで来ると、株価を見る方法も変わります。

一銘柄の上げ下げだけを見るではありません。

たとえば、

指数

日経平均・TOPIX

価格

各業種・各銘柄

量

出来高・売買代金

広がり

何業種が上昇しているか

移動

どの業種からどの業種へ資金が動いたか

持続性

その動きが翌日以降も続いたか

を組み合わせます。

すると、

「今日は株が上がった」

ではなく、

「今日はどの航路へ資金が移動した」

と見ることができます。

これが Market Radar の考え方です。

株価の次に「何が足りなくなる？」を見る

株式市場で、

半導体が動いた。

次に電線。

建設。

電力。

という順番が見えたとします。

そこで、

なぜ？

と考えます。

半導体工場が増える。

↓

電力が必要。

↓

送電設備が必要。

↓

電線も必要。

↓

建設も必要。

こうして、

株価の動きを、産業構造へ戻して考える

わけです。

そして、

「次に何が足りなくなる？」

を探します。

この問いは、「教室不足」の話と完全につながります。

🌐 4158 兆円と株価は、実は同じ問題だった

最初の疑問を思い出してみましょう。

「日本には 4158 兆円もある。それなのに、なぜ？」

そこで分かったのは、

巨大な数字だけでは中身が分からない

ということでした。

株式市場も同じです。

日経平均が〇万円

という大きな数字だけでは足りません。

その中で、

どの業種が動いた？

どのくらい資金が入った？

どこへ移動した？

その後、本当に企業業績へつながった？

と中身を見る。

つまり今回の NIGHT FLIGHT は、最初から最後まで同じことをしていたのです。

****数字を見る。**

そして、その数字の向こう側を見る。 **

🌟 上級〜一般教養レベルのポイント

株式市場は、

未来を先に探しに行く「偵察機」

として使うことができます。

しかし、

偵察機の報告だけで戦況を決めない。

日経平均。

TOPIX。

出来高。

売買代金。

業種別の動き。

資金ローテーション。

資金拡散。

を見て、

「市場は何を期待している？」

と考える。

そしてその後、

受注

売上

粗利

利益

設備投資

賃金

という実体経済の数字で検証する。

最後の着陸

ここまで長い夜間飛行でした。

出発地点は、

4158 兆円。

「日本には、そんなに資産があるの？」

という素朴な疑問でした。

そこから、

世界で稼ぐ日本。

海外へ出た企業。

国内回帰。

工場。

中小企業。

粗利。

教室不足。

インフレ。

そして最後に株式市場まで飛んできました。

すると見えてきたものがあります。

日本復活を測る数字は、**4158 兆円の資産額**だけではない。

見るべきなのは、

資産

だけではありません。

世界で稼ぐ力

↓

国内投資

↓

周辺企業への仕事

↓

粗利

↓

賃金

↓

消費

↓

次の設備投資

そして、その少し先を探しに行く、

株式市場という偵察機。

日本にお金はあるのか？

そこから始まった問いは、

「そのお金は、どこへ流れているのか？」

へ変わりました。

そして最後には、

「その流れは、次の価値を生み始めているのか？」

という問いになりました。

これが、今回の NIGHT FLIGHT SPECIAL で見つけた答えです。

 **寄り道研究所**

NIGHT FLIGHT SPECIAL

 **上級～一般教養レベル解説でした。**

****資産は「残高」。私たちが探したのは「循環」。****

 **株式市場は、その循環の少し先を飛ぶ偵察機。**

そして答えは、レーダーではなく、

実際のお金の流れで確かめる。

 **本日の NIGHT FLIGHT SPECIAL、正常運航で着陸です。**

それではまた、次回のご搭乗でお会いしましょう。